

## 2019年度 理論言語学講座 概要

理論言語学講座夏期集中

期間：認知語用論 2019年8月10日（土）～12日（月）

日本語文法と一般言語理論 2019年8月23日（金）～8月25日（日）

時間：1日目 13：00～18：30 2日目 10：00～18：10 3日目 10：00～16：10

<p>8月10日 （土）～ 12日（月）</p>	<p>認知語用論 見出し：コミュニケーション力の構成要素は何かー認知語用論から考える 松井 智子（まつい・ともこ） 東京学芸大学教授</p> <p>【語用論】</p>	
		<p>語用論、心理学の視点から、言語コミュニケーションのメカニズムを検討します。関連性理論の基本的な概念について学習しながら、語用論が扱う主な言語現象を把握します。また、コミュニケーション力はどのような認知能力から構成されており、それらがどのように発達し、機能するのかについて、コミュニケーションの障害も視野に入れながら、検討します。授業は講義とグループディスカッションで構成されます。昨年から継続して受講される方にも、今年度から受講される方にも、新しい発見がはるはずです。</p>
<p>テキスト・ 参考文献</p>		<p>テキスト：適宜プリントを配布します。 参考文献：松井智子著『子どものうそ 大人の皮肉』（岩波書店、2013）。</p>
<p>この課目で 前提とされ る知識など</p>		<p>とくに前提とされる知識はありません。</p>
<p>プロフィール</p>		<p>東京学芸大学国際教育センター教授 1995年英国ロンドン大学大学院修了，Ph.D（言語学）。関連性理論を枠組みとした研究に取り組むとともに、実験的な手法を用いて、語用論の発達と障害について研究をしている。著書に Bridging and Relevance (John Benjamins, 2000, 市河賞)、『子どものうそ、大人の皮肉』（岩波書店2013年）、『ソーシャルブレインズ』（分担執筆、東京大学出版会、2009）、『ミス・コミュニケーション』（分担執筆、ナカニシヤ、2011）などがある。</p>

8月23日 (金)～8 月25日 (日)		日本語の具体的な言語事実の観察，記述から，理論的な説明へ 日本語文法と一般言語理論 <p style="text-align: right;">三宅 知宏 (みやけ・ともひろ)        大阪大学教授        【言語学特殊講義】</p>
	講義概要	本講義は，普遍的な一般言語理論を視野に入れながら，個別言語としての日本語について，特に「文法」（形態論，統語論，意味論，語用論との接点を含む）の分野を中心に，議論します。今年度は，具体的な内容として，一般にモダリティと呼ばれる表現（「推量」，「疑問表現（確認要求的表現を含む）」等）とその関連分野の問題を取り上げる予定です。なお，本講義は，日本語の「文法」に関して，①一般言語理論研究を行う上での基礎的な知識を得たい方，②日本語教育を行う上での知識を得たい方，③専門的な日本語研究を進める上での知識を得たい方，④知的興味がある方，を対象としています。
	テキスト・参考文献	適宜プリントを配布します。
	この課目で前提とされる知識など	講義は，受講にあたっての特別な知識は必要としません。昨年度に引き続きの開講になりますが，講義の内容は異なりますので，今年度はじめての受講，昨年度から連続の受講のいずれでも，問題はありません。
	プロフィール	日本語学・言語学 1997年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学 博士（文学） 『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版 2011），『日本語と他言語』（神奈川新聞社 2007），『語彙論的統語論の新展開』（共編著 くろしお出版 2017）等